

トゥギャザー Together

共に生き共に歩む

たじみ男女共同参画情報紙

2012年(平成24年) 2月 多治見市

第21号

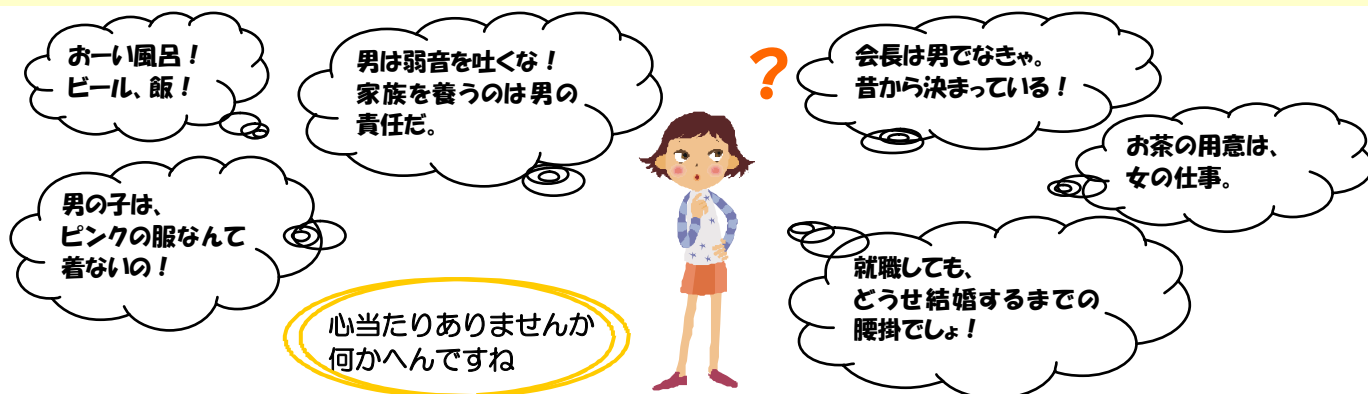
「Together たじみ男女共同参画情報紙」は、みなさまに男女共同参画に関する情報提供をするとともに、一緒に考え、作っていくみんなの情報紙をめざしています。あなたらしさ、わたしらしさ、個性が発揮できる社会、男女共同参画社会の実現に向け、一緒に考えていきましょう。みなさまからの情報、原稿もお待ちしております。

男女共同参画社会とは・・・



男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」(男女共同参画基本法第2条)です。

一人ひとりがお互いを大切に、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮しいきいきと暮らすことのできる社会の実現をめざしています。



平成23年度男女共同参画講演会の報告

8月24日養正公民館において、愛知淑徳大学講師 中島美幸さんをお迎えし、「私たちのこれから 子どもたちのこれから～男女共同参画社会に向けて～」と題し、講演会を開催しました。当日は、教職員をはじめ120人が聴講しました。



講演は、日本の未来はどうなっているのかという所から始まりました。今後日本は、人口減少や少子化が進み2055年には人口8993万人、そのうち65歳以上が40.5%を占めるというものです。高齢者1人を1.3人で支えていかなければならないという推計データに、びっくりするとともに、不安になりました。超少子高齢化社会は労働力不足、年金財政の悪化、介護保険の増加などの問題が山積みです。そこで中島氏は、男女共同参画の必要性を説かれました。女性、高齢者、障害者など、従来労働の機会を十分に得られなかった人たちの活躍が不可欠になり、特に「女性の活躍」推進が経済成長に有効のようです。GGI(ジェンダーギャップ指数: 各国内の男女間の格差を数値化してランク付けしたもの)では、日本は94位(134カ国中)。先進国であるはずの日

本も、男女共同参画の面では後進国なのです。講演中「ジェンダーの刷り込み」という言葉が印象に残りました。ジェンダーとは、育っていく過程で身につく性差観念を言います。「男は仕事、女は家庭」など従来あるべき姿とされてきた考え方です。そのジェンダーを私たちは、知らず知らずのうちに刷り込んでしまっているようです。動物を擬人化するとき「くま」は男、「うさぎ」は女に例えませんか? 男性は上で優秀、女性は下で劣等というイメージを刷り込んでしまっています。刷り込みは生き方の選択を狭めてしまいます。一人ひとりが性別にかかわらず生き方を選択できる社会をめざし、教師、親など身近な大人が子どもたちのロールモデル(模範)として、教えていってほしいと締めくくられました。

そこが聞きたい！男女共同参画の疑問？

今回は、
男女共同参画についての
疑問にお答えします。



なぜ、男女共同参画が必要なの？

日本国憲法には、「すべての国民は、法の下に平等であって、性別により差別されない」と明記されています。しかし、社会の実態を見ると「男は仕事、女は家庭」と言ったように、性別によって役割を決めつけてしまう意識が残っています。一方、急速な少子高齢化や経済不況など私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。こうした社会情勢の変化に対応するためにも、女性の社会参加が必要であり、性別にかかわらず個性と能力を発揮できる社会づくりが求められています。

「男は男らしく、女は女らしく」で何がいけないの？

男らしさ、女らしさを否定するものではありません。人として生き方の選択肢を広げ、個性や能力を十分に発揮できるようにしていこうというものです。

日本のよき伝統や文化を無くしていくことにならないの？

決して今までの伝統や文化を否定するものではありません。今までの慣習やしきたりの中で、見直しの必要性を感じるものがあれば、それを改める意識を持とうというものです。

「主婦」でいることはいけないの？

家事育児に専念する生き方[専業主婦(主夫)]もすばらしい生き方の一つです。ただ一方で、結婚や出産後も仕事を続けたいと思っても思うようにならない人もいます。性別に関係なく、自らが望む生き方ができるよう支えていこうというものです。

男性が家事をすれば男女共同参画なの？

家事に限らず、生活するうえでしなければいけない仕事があります。それを「男の仕事、女の仕事」という役割の壁で仕切っていませんか。その壁を取り払い、大切な相手と協力し支えあって暮らそうというものです。

女性だけが得をするもの？

「男性にはメリットがない、むしろ生きにくくなる」と誤解していませんか。性別で行動が制限されたり、過度の期待により不自由を感じているのは男女とも同じです。損得ではなく、お互いを尊重する考え方が大切です。



性別にとらわれることなく、自分の能力を十分に発揮でき、いきいきと暮らすことができればいいですね。

男女共同参画に関する市民意識調査を実施しました

多治見市では「第2次たじみ男女共同参画プラン」に基づき、男女共同参画社会実現のため、さまざまな施策を進めています。来年度のプランの見直し、今後の施策の検討資料とするため、平成23年8月にアンケートを実施しました。今回その一部をお知らせします。

調査対象 : 多治見市在住の18歳以上の男女1,000人
(住民基本台帳より無作為抽出)
調査期間 : 平成23年8月26日～9月12日
有効回収率 : 48.9%

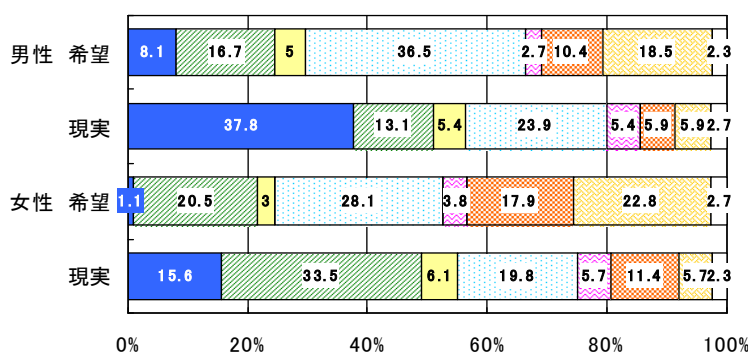


左のグラフは、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の希望と現実を尋ねたものです。

男女がともに「仕事と家庭生活をともに優先したい」という割合が高くなっています。しかし、現実には男性で「仕事優先」が37.8%、女性で「家庭生活優先」が33.5%とどちらかの単一の活動を優先し、希望通りの生活を送れていないことがわかります。

その他、男女の地位の平等に対する意識、DV(ドメスティック・バイオレンス)等「女性の人権」についてなど調査しました。

仕事と生活の調和の希望と現実



■「仕事」優先
■「家庭生活」優先
■「仕事」「家庭生活」優先
■「仕事」「地域・個人の生活」優先
■「家庭生活」「地域・個人の生活」優先
□不明・無回答

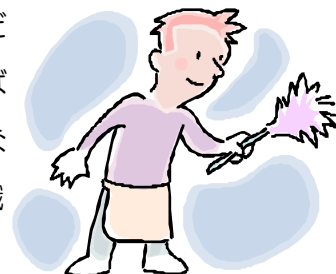
アンケートにご協力いただきました皆様、ありがとうございました。いただきました貴重なご意見・調査結果をプランの策定、施策の推進に積極的に活用させていただきます。

アンケートの詳しい結果『多治見市男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書』は、市役所・各公民館・図書館などでご覧いただけるほか、多治見市ホームページで、確認できます。

(<http://www.city.tajimi.gifu.jp/jinken/danijo/2danijyoplan.html>)

考えてみよう

消防士、パイロットなど従来は男性しか雇用されなかった分野でも女性に門戸が開かれ、女性の働く場がひろがりました。積極的に女性を活用する企業も増え、働き続けられる環境も整ってきています。女性は「コピー取り」「お茶くみ」など補助的な仕事しか与えられず、結婚退職が当然視されたかつての状況と比較すれば、よくなってきたように思います。しかし、平等となり女性も男性並に働くことが求められるなか、男性の長時間労働が解消されない状態で、家庭責任が重いままの女性が多いのが現状です。仕事と家庭の両立に悩む方も多いのではないのでしょうか。仕事と家庭の両立は女性だけの問題ではありません。少子高齢化が進むなか、介護をしながら働かなければならない方も増えてきます。仕事と生活の調和は、男女ともに取り組んでいかなければならない課題です。男女共同参画社会の実現に向け、一人ひとりが意識し、考えてみましょう。



たじみ男女共同参画サロン ほっと

『ほっと』は、市民のみなさんが自由に集い、ほっとする場、ホットな意見交換ができる場であることをめざしています。グループで参加されても、一人で参加されてもOKです。

悩みごと相談

1人で悩んでいませんか？

自分のこと、家族のこと、職場のこと・・・

さまざまな悩みを女性アドバイザーに相談してみましょう。

多治見市役所子ども支援課の女性相談員も相談に応じます。

情報交換・情報発信

グループ活動の情報交換や交流の場としてご利用いただけます。

また、男女共同参画に関する講座案内、情報紙など資料があります。

参考資料の貸し出し

女性の人権、仕事と子育ての両立など、

男女共同参画に関する図書・DVDを無料で貸し出しています。

グループの学習会などにもご利用ください。

しゃべり場！！

開設日 毎月第3金曜日
午後1時～5時

場所 まなびパークたじみ
1階学習室 101

「来年主人が定年で家にずっと居るようにするの。どうしたら良いかしら」

とか

「子どもから手が離れたから、再就職したいけど、何かから手をつければ良いかなあ」

など

アドバイザーに話してみませんか。話すことで、問題解決の糸口が見つかるかもしれません。お気軽にお越しください。

男性の方もお待ちしています。

みんなでおしゃべりをして、ストレスを発散しましょう！



【お問い合わせ】

多治見市くらし人権課 22-1111（内線1152）

図書・DVDの紹介

たじみ男女共同参画サロン「ほっと」が所蔵している図書、DVDのを紹介いたします。無料で貸し出していますので、ぜひお立ち寄りください。



『定年漂流』 西田小夜子著
(西多摩新聞社)

定年夫婦の様々な生き方や葛藤を凝縮した全17話。小説仕立てのノンフィクションです。定年退職した夫は、四六時中家でごろごろ、何もせずどこにも行かない・・・それにストレスを感じる妻。定年後の迎え方、生き方、葛藤を描いた本です。



『人と人とのよりよい関係をつくるために～交際相手とのすてきな関係をつくっていくには～』DVD

内閣府男女共同参画局 企画

若年層を対象とした交際相手からの暴力の予防啓発教材『人と人とのよりよい関係をつくるために』を使った授業の例を指導者向けにわかりやすく解説した教材です。若年層にそのまま視聴させることもできる部分も含めた構成になっています。



『誰も教えてくれないお金の話』
うだひろえ著 泉正人監修
(サンクチュアリ出版)

お金ってなんで貯まらないんだろう、いつのまにか消えちゃうお金・・・お金のことを知らない主婦うだひろえがお金のことを知る旅に出ます。「目からウロコ」が連続の誰も教えてくれないお金の話です。



『ワーク・ライフ・バランスを知っていますか？～働く人たちの声～』DVD

内閣府男女共同参画局 企画

ワーク・ライフ・バランスという言葉を知っていますか？それは、「仕事」と「生活」を調和させるライフスタイルのこと。家庭や社会など私たちの身近なところで、すでに様々な取り組みが始まっています。このDVDでは、ワーク・ライフ・バランス社会の実現を目指す企業や、仕事と家庭の理想的なバランスを実践する人々の姿をドキュメンタリーで紹介します。(ナビゲーターは照英さんです)

発行：多治見市役所環境文化部くらし人権課 人権グループ

〒507-8703 多治見市日ノ出町2丁目15番地

電話 0572-22-1111（内線1152） FAX 0572-25-7233

E-mail: kurashi-jinken@city.tajimi.gifu.jp

HP: <http://www.city.tajimi.gifu.jp/jinken/>

この情報紙へのご意見やお問い合わせはこちらまで。